

おげんきですか

町立病院内科医 上田修三

日之影町国民健康保険病院(☎87-2021)です。初診者、月替わりは保険証をおわすれなく！

こんにちは上田修三です。

日之影町の皆様、このたび町立病院に内科医として赴任して参りました上田修三（うへだしゅうぞう）と申します。これからは、色々な所で皆様と仲良くおつきあいしていただきたいと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。

二十数年前、まだ大学生の頃たびたび傾山登山のために訪れて以来、日之影は私にとって懐かしい町です。

四十年近い長い間、日之影の医療に御尽力された高橋修三先生が退職された後を引き継ぐ形で、宮崎医大第二外科より派遣された米沢勤元院長と共に、第三内科より私が派遣され着任したのは平成二年の四月でした。一年間の日之影町への赴任期間を終えると同時に、父の診療所を継ぐために郷里の大阪の病院へ勤務することになりました。大都会は、医学のレベルは高く、娯楽など私生活の面でも刺激的でそれなりに楽しかったの

ですが、自分を医師に育ててくれた宮崎の皆様方の人情と自然を忘れがたく思っております。その後、東京の病院勤務を経て五年前に再び宮崎へ戻って参りました。延岡に住むことになり、懐かしい日之影へ家族を連れ何度か足を運ぶこともありました。

先日、中嶋院長先生より日之影の病院へお誘いを受け、嬉しく思う一方で、忙しい勤務に耐えるだけの体力の自信もなく数日間大変迷いました。が、何かの巡りあわせに違いないと思い赴任させていただくことになりました。

歴代の職員の皆様の御協力により、十年前に比べ町立病院の充実ぶりは目を見張るものがあります。現在の私はまるで浦島太郎のようですが、一日も早く他の職員の皆様のレベルに追いつき、町民の皆様のためにがんばって参りたいと思います。どうぞ末長くお願い申し上げます。

さて、振り返りますと、この十年の間に医学の基準や言葉も大分変化しました。高血圧・糖尿病・高脂血症などは大人の病気として成人病と呼ばれてきましたが、最近では年齢や性別に関係なく日本人全体に増えつつあり、その原因として食生活や運動不足、社会的ストレスなどの生活習慣が考えられるようになり、生活習慣病と呼び名が変わりました。かく言う私も、この十年の間に少しずつ体重が増えコレステロールを気にする毎日です。

高血圧の基準は特に変化が大きく、今や収縮期血圧が一回四〇を越えると異常と言われるようになってしまいました。これまで「血圧はいいですよ。」と言われていた人が「高血圧です。薬を飲みましょう。」と言われるのですから大変です。最近の研究では収縮期血圧が一四〇以上の人は、それより低い人に比べ脳血管障害や心筋梗塞にかかりやすいことがわかり、基準が見直されたためです。余りにも大きな突然の変化にびっくりし、あ

ではありません。我々医者も同じです。基準が変わったわけですから仕方がないのです。が、だからと言ってすぐに患者さん全員にこれを当てはめるわけにもゆきません。大騒動になってしまいうでしよう。正直なところ、こうしたものかと頭を抱えている毎日です。しばらくの間は、同じ血圧なのに医者に言われることが他の患者さんと違うと悩む患者さんもあるかもしれません。

糖尿病の診断基準は厳しくなりました。去年までは糖尿病ではなかったのに今年から糖尿病ですよ。などと言う笑うに笑えないことも起こっています。

その一方で高脂血症、特にコレステロールの基準は、現在検討中ですが少し甘くなりそうです。

結局、永遠に続く最善の治療法や薬はなく、人それぞれ、その時・その時の自分に最良（？）と思われる事を積み重ねるしかないということでしょう。抽象的表現でごめんなさい。